

SHOW HEY シネマルーム

★★★



Data

監督：キャメロン・クロウ
出演：トム・クルーズ／ペネロペ・クルス／キャメロン・ディアス

👁️👁️ みどころ

新聞広告には全米NO. 1大ヒット！本年度アカデミー賞最有力候補と書いてある。12月22日封切り直後にみた。たしかに映画館は満杯。しかし内容は・・・？あんまり好きではないな、この手のワケのわからないストーリーは。トム・クルーズの魅力も半減。でも2人の女優はいい。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<ハンサム男 トム・クルーズの挑戦>

主人公デヴィッド（トム・クルーズ）は 美貌のハンサムボーイであるうえ、父親の遺産を1人で相続した出版社の若き重役。女にもてない筈がない。

デヴィッドには恋人のジュリー（キャメロン・ディアス）がいたが、デヴィッドの誕生パーティーで魅惑的な女性ソフィア（ペネロペ・クルス）と出会い、恋におちた。「先約済み」の筈のジュリーは、「後発組」のソフィアにデヴィッドが惹かれていくのが当然気にいらず、デヴィッドを追っかける。追っかけられるデヴィッドは、ジュリーを避けてますますソフィアの元へ。そして「三角関係」のもつれの末、ヒステリー状態のジュリーの車に乗ったデヴィッドは、ジュリーの暴走運転の犠牲となり、顔面等に瀕死の大ケガを。そしてジュリーは却死した。

ここまではどうも現実の話のようで、話の展開はよくわかる。しかしそこから話がややこしい。あのハンサムボーイのデヴィッドが、どうも精神科医らしき人からの質問を受けて答えている。しかし、その顔がなかなか見えない。一体何がおこったのだろうか……。そして突然スクリーンにあらわれたデヴィッドの顔には、白い能面のようなマスクが……。そして手術の場面。医師団との話し合い。こんな場面の連続の中、どうもデヴィッドは顔

面にひどい傷を負い、ハンサムボーイが台無しになったのではないかとわかる。そして、はじめて見せたデヴィッドのつぶれた顔面。これを見たときは一瞬ゾッとする。あの美貌のトム・クルーズがなぜこんな役を演ずるのか・・・？

＜夢か現実か、2人の美人女優＞

映画は、ジュリー運転の車の交通事故で顔面に瀕死の傷を負ったデヴィッドがショックと恐怖のあまり、夢と現実の区別がつかなくなり、記憶がメチャクチャになっている姿を執拗に描く。あの美人女優のキャメロン・ディアスがこの映画ではかなり悪者（悪女）に描かれているのは意外だが、デヴィッドにストーカー的につきまとう女を演じている。他方、ソフィアを演じた美人女優は、最近封切られた「コレリ大尉のマンダリン」（01年）で素晴らしい演技をみせたペネロペ・クルス。これはジュリア・ロバーツによく似た、目が大きく、くちびるが厚くてデカイ、情熱的な顔だちのスペイン系女優。この2人が入れ替わり立ち替わりデヴィッドのまわりに現れるが、果たしてこれは夢か現実か・・・。

＜作品の価値は・・・＞

パンフレットによれば、「本作は97年に製作されたスペインの奇才アレハンドロ・アマナーバル監督の長編第2作『オープン・ユア・アイズ』が原作になっている」、とのこと。また、「この映画がもつ幻想的な世界に魅せられたトム・クルーズは製作のポーラ・ワグナーと共に、すぐさまハリウッドでの映画化権を取得した」、とのこと。なるほど「幻想的」だ。というより、正直に言えば、ワケがわからない。「観客は、最後にはきっと人生の真実を知ることになるでしょう」とパンフレットには書かれているが、残念ながら私には、この映画を観て「人生の真実」を知ることにはならなかった。2人の美人女優が入れ替わり立ち替わり出てくるので、何とか途中でイヤにならずに観ることができたというのが正直な私の感想だ。こんなに手のこんだ、ワケのわからない映画のつくり方をしなくても、もっと「人生の真実」を描くことができるのではないだろうか。私にはそう思えてならない。トム・クルーズも美貌役は飽きているのかもしれないが、ちょっとエッチで幻想的だった映画、『アイズ・ワイズ・シャット』の方が格段によかったと思う。あの映画にはニコール・キッドマンがいたから、というわけではなく・・・。

2001（平成13）年12月25日記